

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回病院運営審議会		
開催日時	令和6年(2024年)9月12日(木) 11時00分～12時22分		
開催場所	市立豊中病院 講堂 (管理棟5階)	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 経営企画課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員	足立委員、今井委員、笠井委員、北村委員、多田委員、渡邊(美)委員、渡邊(太)委員、的場委員	
	事務局	直川事業管理者、藤野総長、岩橋病院長、今村副院長、中川副院長、西尾副院長、秋田事務局長、小杉医務局長、西田中央診療局長、宇佐美薬剤部長、越智看護部長、東山医療安全管理室長、松永患者総合支援部次長兼地域医療連携室長、鍋島がん相談支援センター長、井上栄養部長、生島放射線部長、吉良医療情報室長、豊田医事課長、大澤事務局次長兼病院総務課長、梁病院総務課主幹、南経営企画課課長、角山経営企画課主幹、大園経営企画課主幹、岡村経営企画課長補佐、檜垣経営企画課主査、山口経営企画課主事	
	その他		
議題	(1) 委員長の互選について (2) 委員長職務代理者の指名について (3) 令和6年度第1回病院運営審議会資料【資料1】 (4) 市立豊中病院運営計画「重点項目報告シート」 —令和5年度の実施状況の振り返りと評価—【資料2】 (5) 部会の活動について(中間報告)【資料3】		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

令和6年度第1回病院運営審議会 審議等の概要

1. 開会

2. 委員出席状況報告等

- ・事務局から、全委員12人中8人出席により病院運営審議会第8条第2項に基づき、本審議会の成立を報告

3. 議事

(1) 委員長の互選について

- ・北村委員長を選出

(2) 委員長職務代理者の指名について

- ・北村委員長から足立委員を指名

(3) 令和6年度第1回病院運営審議会資料

- ・事務局から、資料1（報告案件）に基づき説明

《意見等》

委員： 新型コロナの影響がなくなり決算状況が純損失になっているが、患者数の増加などどのような見通しで取り組んでいるのか。

事務局： 令和5年度は新型コロナの補助金減少などの影響があり、まずは重要課題である経営改善に向けて当院の課題可視化に取り組んだ。純利益を出している他院に出向き、ベンチマーク比較を行った。病床数の違いがあるが、費用が上回る事例が判明した。併せて、地域から当院に求められる専門性の高い患者の受け入れ強化により、診療単価向上に取り組む。当院の医療資源や機能に見合う適正な収益を得るための取り組みを行いたいと考えている。

委員： 昨年度末で特定病床50床が減少し、病床数減少に伴い地方交付税が若干減少すると認識している。医業外収益に繰入金が入っている中で6.6億円の純損失になっているが、今年度から50床減少している中で、4月から8月の経営成績はどのような状況か。全国的に新しい診療報酬改定で、どこの病院も収支は苦しい状況ではあるが、市立豊中病院についての現状を教えてもらいたい。

事務局： 今年度4月から医業収益は上がっているが、費用も上がっており、収支の面からみるとそこまで良い状況ではない。

委員： 昨年度から悪化しているのか、それほどでもないのか。

事務局： 現時点において、途中経過ではあるがそれほど差異はないと考えている。

委員： 2点お聞きしたい。1点目は、医業外収益の悪化により収支がさらに悪化するのではないかという懸念。特定病床減少により補助金がどの程度減り、収支に影響があるのか。2点目は、医業収支比率が戻り切っていない中、物価高や材料費増加、制度改正に基づく給与費の増加など貴院独自のものでない収支悪化の要因が想定されるが、入院・外来収益でどこまでカバーできるのか、今後についてどのように考えているのか。

事務局： 1点目について、補助金の内訳として、4億5,000万円がコロナの補助

金で、残りがその他補助金等であるが、金額的には特定病床返還による大きな影響は無い。2点目について、費用の削減と収入の増加に重点を置いて進めていくが、それらがうまくまわるように、適切なタイミングで患者さんの地域医療機関への転院や自宅療養のための退院支援などに取り組み、急性期病院として専門性の高い患者さんの受け入れを進めていく。

委員： 令和5年度は新規入院患者数増や単価向上をはじめ病床稼働率向上などとても頑張っていた。さらに頑張るとのことであるが、現場の疲弊やリスク管理にもぜひとも気を付けていただきたい。

事務局： 特定病床返還による地方交付税減少について。豊中市の仕組みとして大本の一般会計に地方交付税が入り、どの程度影響があるかは、財務部局と確認する。

委員： 補足であるが、公立病院が休床病床を有していて、病床を減らさないということが問題になっているが、その一番の理由が繰入金で病床数により算出される仕組みになっており、そのため、どの病院も病床返還が出来ないということなので質問させてもらった。

事務局： 市により繰入ルールが異なる可能性はあるが、交付税の基準財政需要額を参考にしており、本市の場合は必ずしも病床数にはよらない。一般会計への影響額についてご質問いただいたので、後日確認して委員の皆様にお知らせさせていただきます。

委員： 2点お聞きしたい。1点目、令和5年度の収支決算について6億5,000万円の赤字となっている。令和2～4年度はコロナ補助金による黒字だったが、過去の黒字の剰余金の活用はどうされているのか。長期的な財政運用をどのように考えているのか。2点目、豊中市民に来てもらうための病院としてどのように努力されているのか。

事務局： 1点目の剰余金について、令和元年度時点は累積欠損金が19億円程度あり、黒字は過去3年間の累積欠損金の解消に充て、令和4年度は利益剰余金が2億1,000万円程度発生した。資料としては記載していないが令和5年度累積欠損金は4億5,000万円となっている。まずは、この累積欠損金の解消を目指して令和6年度以降取組みを行っている。

事務局： 2点目について、当院も課題として捉えており、どこから患者さんが来ているのか分析している。併せて、豊中市民向けには福祉部門や就労支援の部門など豊中市部局とのさらなる連携を計ることで市民サービスの充実を目指している。

(4) 市立豊中病院運営計画「重点項目報告シート」—令和5年度の実施状況の振り返りと評価— ・事務局から、資料2（審議案件）に基づき説明

委員： これだけの規模の病院なので、多くの患者によって成り立っているわけで、市民としても注視している。市民サービスの向上に取り組むとあるが、優秀な医師、性能の良い医療機器があることを知らせてほしい。ロボット手術をおこなえる医師や、専門性の高い医師が在籍し、信頼感のある病院であると思っしてほしい。

事務局： 高度機器を扱える医師がいるか、またその研修はおこなっているのかという

ことについて。資格を持った医師が在籍しており、その医師が未取得の医師の育成を行い、病院としても支援しているのでご安心いただけるかと思う。

委員長： いかに豊中市民に来てもらうかという点について。新駅近くに新しく建てる箕面市民病院は市全体でまちづくりとして考えているが、今後豊中市は病院としてどう考えていくのかご検討いただき、示してほしい。

事務局： 患者さんを集めるためには一つの取り組みだけでなく、広報活動や、紹介いただく医療機関との連携や信頼関係の構築も様々な取り組みが必須と考えている。また取り組み状況を報告させてもらう。

委員： ここに病院を建てて約30年、建て替えの時期が来ていると思う。ここは南部からの市民が来づらい。また、池田、川西、箕面など公立病院が近い距離にあり患者の取り合いになっている。地域医療構想でも南部は大阪市に流出が多いと指摘されている。

事務局： 建て替えは市全体で考える話なので市長部局として連携して今後考えていく。

委員： 2点お聞きしたい。1点目、評価のAまたはBは、全体の観点から評価しているというが、なぜ、これがBなのかというのがわかりにくい。指標を重要視しているならわかるが、文章を読むとBでもできていることがたくさんある。2点目、IV-1働き甲斐のある職場づくりについて、「時間外勤務時間年間960時間（B水準対象者）の割合」をどのように減らしていくのか。また、取組実績の3行目「長時間勤務が100時間を超える職員のみ」とあるが、「月の時間外勤務・休日労働が100時間以上の職員」としておかないとわからないのでは。

事務局： AとBの違いがわかりづらい点について。取組みが前進していても課題があるものや、想定していたスピード感で進まなかった場合にB評価としている。その根拠は課題/今後の方針にB評価である旨を記している。

事務局： 「時間外勤務時間年間960時間（B水準対象者）の割合」の目標値を達成できるのかという点について。厳しい状況ではあるが、特定行為看護師の育成や特定病床返還に伴う人員再編によりコメディカルを採用し手術室に配置し、医師の負担を減らす取組みを行っている。また、医師事務作業補助者を順次採用し、約60人にまで増えている。システムも導入し、本人や上司が勤務間インターバルの状況を視覚的にもわかりやすくできるようにするなど、様々な取組みを進めている。取組実績におけるご指摘の表現は修正させていただく。

(4) 部会の活動について（中間報告）

・ 部会長から、資料3（報告案件）に基づき説明

《意見等》

なし

4. 閉会

事務局： 第2回については例年であれば12月または1月に行う予定。詳細な日程は決定次第お知らせする。

<以上、終了>